

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0690100771		
法人名	山形市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム鈴川		
所在地	山形市大野目1丁目4-62		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 23 日	開設年月日	平成 29 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 28 日	評価結果決定日	令和 4 年 2 月 14 日

(ユニット名 紅花ユニット)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鈴川は、地域の方に開放する地域福祉活動センター併設ホーム施設として開設5年目を迎えます。特徴として調理、片付け、掃除等、利用者全員が日常生活での役割を發揮して頂けるよう活動型を継続していますが、今年もコロナ禍が続き、外出活動や買い物、地域合同の百歳体操等の定期的活動は自粛を余儀なくされました。しかし、どのような状況の中でも、利用者及び職員一人ひとりの力を活かすことや個性・能力・経験・役割・専門性) 結びつきを大切にし、地域の中で利用者一人ひとりが尊厳され、生きがいをもって生活出来るよう働きかけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の行動指針として「一人ひとりの力を活かす」と「結びつきを強化」することを掲げている。日々の暮らしの中で利用者が自らの役割や意思が反映された生活ができるよう、出来ることや好きなことを大切にしながら「利用者の力を活かす」生活を支えている。家族宛ての月次報告書にモニタリング結果も加え、3か月毎のサービス担当者会議には家族参加を原則とし、介護計画の見直しや計画作成に意見を反映しながら、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の「結びつき」を大切に共に支えていく関係を築いている。地域の中で高齢福祉の拠点としての役割を担い、百歳体操、避難場所の提供や地域役員の参加による避難訓練や水害避難の勉強会など地域との「結びつき」を強化し、行動指針の実践に努力している。コロナ禍が長引く中、職員は工夫と努力を重ねながら使命感をもって利用者を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示し念頭に置くが、全てを意識しての実現は難しい。今後も理念の共有と実践を周知し意識して行っていきたいと思っている。	理念の共有と実践のため、「行動指針を」定めている。利用者の出来ることの継続や好きなことを大切にする計画や、家族との結びつきを大切にしたい計画作成につながる関りなど、「一人ひとりの力を活かす」こと「結びつきを強化」することの実践に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も新型コロナウイルスの影響が大きく、地域の方との関りがなかなか出来ぬ状況にあったが、新しい生活様式にて秋季の避難訓練は合同の開催を行った。また、ボランティアで窓の掃除や除雪等をして下さり、地域の一員として認知され支援頂いている。	従来は地域文化祭への参加や世代間交流会への参加、100歳体操への利用者の参加など多岐にわたる付き合いがあったが現在は中止している。しかし感染症に配慮しながら、避難訓練に地域役員の参加を得たり、ボランティアによる清掃など、従前からの交流が続いている。地域の中で高齢福祉の拠点として、水害対策への勉強会の開催なども行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の前に地域の方に認知症の人の理解を深める講座や話し合いの場を設ける予定だったが、コロナがなかなか終息しないため計画が難しかった。代わりに秋季の防災訓練後に地域役員と水災害についての勉強会を実施した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。利用者の活動状況等を報告し問題点には協議を行っている。また、身体拘束の指針に沿い、適正化に向けた状況の確認を得ている。運営推進会議で出た意見助言等は、ユニット会議で報告共有し改善を図っている。	2か月に一回運営推進会議が開催されている。事業所の行事や事故事例、避難訓練の報告がなされ、また、身体拘束適正化についての取組が報告されている。委員からは「不適切な接遇にならないための取組み」として様々な意見を頂いている。地域代表からは、個別支援で近隣を散歩している光景についての評価など意見を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指定地域密着型として山形市長寿支援課との連携を図り、運営会議報告の報告や、やむを得ず起こってしまった事故報告等速やかに報告、改善に導かれている。コロナ禍で実施出来ていないが、介護相談員派遣事業の意見交換も一つの連携評価とも考えている。	運営推進会議の報告により、事業所の現状や取り組みへの理解を頂いている。制度上の問題や利用者の個別の問題等には担当窓口を通して連携を図り問題解決に向け努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関以外鍵をかけないようにしている。玄関には防犯カメラもついている為それで様子を見たりしている。また、定期的に身体拘束適正化の指針の確認ほか、不適切接遇を行わないためスピーチロック(言葉の拘束)防止、認知症BPSDにつちいて内部研修を実施している。	不適切なケアにならないためと題し2か月に一回会議で、身体拘束をしないケアについて学んでいる。運営推進会議でも報告し意見等いただいている。介護計画に「不安な気持ちになった際は寄り添い傾聴すること」を目標に掲げている具体例もある。それぞれの介護目標を職員が共有・連携しながら、寄り添い見守ることで安全を確保し、危険につながる行為を未然に防止している。更に鍵をかけない工夫や不適切な行為が行われないよう工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で定期的に身体拘束を含め虐待や職員への精神管理としてアンガーマネジメントについての研修を行ったりしている。また、外部的には運営推進会議のなかで職員研修の確認を受けている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理が困難な利用者に山形市社会福祉協議会より後見事業として福祉利用援助事業を受けている。毎月の訪問の確認を受け、出来るだけ本人の希望に添われている。また、成年後見人を利用しているかたも入所していた経緯もあるため、今後も制度について勉強していきたいと思っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書・契約書の説明を行い、疑問や質問を受け説明している。また、家族会などを利用し加算などについての疑問などを聞き説明している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時(新しい生活様式・リモート面会)や運営推進会議で意見・要望を伺うようにしている。意見・要望が出た時はリーダー会議やユニット会議などを利用し職員間で話し合いをし運営に反映するように努めている。	感染症対策のため従来のような面会は出来ていないが、窓越し面会やリモート面会等の機会を確保している。毎月、月次報告を行い、家族とのかかわりを大切にすることで、信頼関係を築き、意見等表し易い関係を作っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や普段の何気ない会話の中から職員の意見や提案を聞くようにしている。意見や提案は上司に相談し出来るだけ反映させられるように努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は出来るだけ、職員の希望にそい作るようにしている他、体調を考え夜勤の長時間労働を避け8時間割りにしている。職員の得意分野を活かし係などを決められるようにして行きたいと考えている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議において研修報告を実施している。また、認知症実践者研修の課題を共有し、意見交換研修を実施。今後も必要に応じて様々な研修をしていきたいと思っている。	法人による研修や毎月の運営会議からの事業所職員への伝達、外部研修、時宜に応じた事業所内の勉強会など、学ぶ機会を大切にしている。また、職員の自己評価やユニット目標への各職員の取り組みなど、管理者等と話し合い指導することで、職員の力量の把握と働きながらトレーニングすることに繋げている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会に所属し、ブロック会議の参加や役員会に参加し、出来るだけ多く情報交換やレベルアップに繋がりたいと思っている。	グループホーム連絡協議会に参加し、感染症に配慮しながら、情報交換やリモートによる研修など、連携を大切にしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来るだけご家族等と施設を見学してもらいたいが、コロナ感染防止のため現在は見学を実施していない。ただ、入所する前に自宅または、利用施設などにこちらからおもむき、本人・家族に面談を行い不安なことなどを聞くようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や入所契約時等に家族から話を聞き、現在家族が抱えている問題や不安を少しでも解消して頂けるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に乗る上で、その人が求めている事や真のニーズが違っているものであれば、他のサービスの存在等を紹介、時には繋いだりするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の立場に立ち、人生の先輩としての敬意を持ちながら、毎日の掃除、洗濯、食事の盛り付けなどをともに行き、支え合う関係を支援している。また、現在買い物は行けていないので、食べたい物などを聞き一緒にメニュー決めを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や精神面の変化など、面会時に話をしたり、月次報告書を活用しともに支えて行く関係を築くように努めている。面会時は、日頃の様子を伝えたりし、リモート面会などを通して家族の絆を深められるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新しい生活様式を確保しながら、病院や理美容等、馴染みの安心感の持てる所に出来るだけ通って頂いたりしている。また、遠方にある家族などに手紙を出したり、電話をしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮しフロアでの座る位置等を考えて利用者同士で会話が出来る様に配慮している。また、状況に応じて職員が間に入って孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等に入院や他施設への入所後の経過で、不安に思う事等、いつでも相談して頂きたい事を話している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心として、利用者の思いや、暮らし方の希望・意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は家族より聞き取りさせて頂いている。	センター方式を一部活用し、利用者の生活環境を理解し出来ることや好きなことを大切にしながら生活を支えている。意思表示ができる方にはゆっくり話を聞き、困難な人には行動やしぐさから汲み取り、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談「暮らしの情報シート」を参照し、その後家族からは面会時を利用して聞くようにしている。利用者との普段何気ない会話から若い頃のことなど引き出している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや月1回のユニット会議時のケアカンファレンス及び週一回のチームミーティングで生活状況や変化等話し合い、その人らしい生活が出来る様努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで出た意見や本人・家族の要望をもとに介護計画を作成している。介護計画については、3か月に1回見直しをしている。	毎月モニタリングを行い、計画の実施状況の把握と評価を行っている。モニタリング結果を「月次報告書」に加え、毎月家族へ報告を行っている。3か月ごとサービス担当者会議を開催し、家族と職員の意見を聞きながら、計画の見直しが行われている。利用者の出来ることを活かし、趣味や楽しみごとを大切にしたい個別支援の計画が作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状況を早番・日勤・遅番・夜勤のスタッフが24時間記録しており、状況把握に努めている。職員間での共通理解を得るために、ユニット会議などで話し合い検討し、必要時には介護計画を見直している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までは、ボランティアの受け入れ、地域の文化祭、世代間交流会への参加、百歳体操、個別的な地域サロンへの参加など、地域の人たちに協力頂いていたが、コロナウイルスの影響もあり実施できていない。今後、コロナ禍でも地域資源を把握し、ここに行かせる方法がないか探していきたいと思っている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時報告書を作成し、施設での状況を医師に伝えている。また、体調不良時は事前に報告を行い受診し、生活への助言を頂く他、検査や入院の必要時は紹介状や連携を頂いている。	従前の医療機関との連携を大切にしている。受診時報告書を作成し医療機関に利用者の情報を提供し連携している。原則家族による通院であるが状況に応じて事業所でも支援している。受診結果等は速やかに家族に連絡し、家族の医療への安心に繋げている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護福祉士と看護師両方の資格を持つスタッフが居るため、利用者の病状等について変化があれば状態報告、相談し状態に応じて一緒に対応し、状態観察を行っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院をした時は、速やかに病院の相談員と連携を取り、主治医や病棟看護師との情報交換を行い、治療経過などの連携を図っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に対する施設の方針を説明している。利用者の状態をみて、介護保険の区分変更をかけたりしながら家族と話し合いをし重度化や終末期に対する意向を共有し、医療機関や他施設との相談連携を図っている。	早い段階から事業所の出来ること出来ないことを説明し、重度化や終末期へに向けた方針の共有を図っている。状況の変化に応じ繰り返し話し合い合意を得ている。重度化に伴い、支援方法をユニット会議で検討し共有しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。実際に救急車を呼んだこともあり、その時の様子や対応などをユニット会議等で話して共有している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春季・秋季の年2回防災訓練を実施している。秋季は、町内会の役員と一緒に防災訓練を実施した。訓練後は地域の方と水災害におけるハザードマップの確認等も行っている。また、地域の方からの提案で居室の避難が済んでるかわかるよう各居室へプレートをつける等の工夫を行った。	年2回避難訓練を実施している。地域の役員の方にも協力を頂き、連携体制を作っている。地域役員と水害対策についての勉強会も行っている。昨年の目標達成計画に従い、各居室に避難前後が明らかになる工夫を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬意を払いながらの対応に努めている。また、プライバシーの確保には十分気をつけている。	利用者の好きなこと得意なことが継続できるよう支援し、その人らしい生活環境を作ることで人格の尊重を大切にしている。不適切な言葉かけや対応には速やかに会議等で話し合い共有し注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立決めに参加され自己決定が出来る場を作っている。また、日常生活の中で利用者の思いや希望を引き出すように話しかけたりするように努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・入浴日・食事の時間など決まりはあるが、その日の体調に合わせて入浴日を変更したり、食事の時間をずらしたりしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は出来るだけ本人に選んでいただいている。また、訪問美容室や希望者は外の美容室にて、定期的にヘアカットするなど身だしなみには気をつけるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を作り、調理・片付けをして頂いている。献立は季節に合ったメニューを取り入れる事で季節感を味わってもらっている。買い物に関しては感染防止の為現在は中止している。	毎日食事の献立について利用者と一緒に考える機会を大切にしている。献立から調理、片付けまで利用者と一緒に行うことで、自立に向けた家庭的な食事の支援が行われている。行事食や季節感を大切にし、食事にアクセントをつけ、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はチームミーティングやユニット会議などで意見を出し合い個人に合った食事形態で提供している。水分量の少ないと思われる利用者には10時と15時のお茶の時間に本人好みの味にし提供している。また、入浴後は必ずポカリスエットを提供し水分補給をしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず義歯洗浄・歯磨きなど個人に合わせた口腔ケアを声掛けし実施している。自分で難しい方は職員が介助をしている。また、舌も確認し汚れている方はした専用の歯ブラシを購入し舌磨きをしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意が無い方も定期的に誘導を行いトイレでの排泄に努め、排泄のリズムの把握に努めている。また、出来るだけ紙パンツののではなく布パンツで対応出来るかユニット会議で検討している。	排泄チェック表を活用し適時の誘導によりなるべくトイレでの排泄を支援している。介護計画に支援内容を位置づけ、評価を繰り返しながら自立に向けた支援を行っている。トイレでの排泄の成功を大切にした介護計画がみられた。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれの排泄チェックを行い、必要に応じて主治医に相談し、便秘薬を処方して頂いている。また、便秘薬だけに頼るのではなく、きな粉牛乳やきくらげ、にがりなどの食品を使用し便秘予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、その日の体調や予定に合わせて変更したりしている。	利用者の状態や希望を大切にし支援している。入浴を好まない方にも、声掛けや誘導を工夫し、又は同性による介助など職員を交代しながら、清潔が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝する時間は決めておらず、一人ひとりのペースで休んで頂いている。その時の状態や体調に合わせて、温度や明暗にも配慮し、安心して休んでもらっている。また、昼食後は昼寝をして頂いたりしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理はスタッフがっており、服薬内容については、ケースファイルの薬説明書で各職員が確認理解をしている。また、内服薬について困った事があれば提携している薬局の薬剤師に相談・助言を頂いている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・食事作り、片付けなど生活の中に役割が出来ている。認知症の進行がある方でも、できる事を見つけている。また、2階に行き談笑したりと気分転換を図っている。また、お酒が好きな利用者もいるため、節目の行事の時などにお酒を提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出行事は減ったが、外に出たいと希望されている利用者には近所に散歩にいったりなどし対応している。また、今年はコロナウイルスが落ち着いた頃を見図り、密にならないところにドライブに行ったりしている。	感染症対策に配慮しながら、ドライブなど外出の支援に努力している。職員と利用者によるゴミ出しや個別支援の散歩など生活の場面としての外出の機会を大切にしている。以前では食材の買い物など日常的な外出を大切にしていた。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にこちらで管理しているが、本人がどうしてもお金を持っていないと落ち着かない利用者は家族に了承を得て、少額のお金を所持している方もいる。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族や親族と話ができる機会を作っている。遠方の知人や親族との手紙のやり取り、や年賀状の投函などの支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はバリアフリー仕様、窓は2重窓になっており外部の騒音が入りにくくなっている。フロア・浴室・トイレも毎日掃除をし清潔を保っている。また、季節の花や作品を飾ったりして、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。	温度や湿度は管理され、毎日利用者と掃除が行われ清潔感を大切にしている。感染症対策のため換気をこまめに行っている。季節の花や観葉植物、利用者の作品、思い出の写真等が掲示され、食卓やソファー、畳敷きに炬燵など、思い思いに過ごせる場所があり居心地よく過ごせるよう工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーで新聞を読んだり、和室でくつろいだりしている。また、定期的に席の見直しをし、気の合った利用者同士で過ごせるようにしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族の協力の下、今まで使用していたものを持って来てもらったり、家族写真を飾ったりなど居心地よく暮らせるように支援している。	利用者の馴染みのもの等が持ち込まれ、それぞれの好みの飾りつけがなされている。空気清浄機があり、温度湿度が管理され居心地良く過ごせる空間づくりに努力している。居室の入り口には、避難誘導のため在室か否かがわかる工夫をしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様、手摺の設置、居室入口のネームプレート、トイレの貼り紙など、分かり易い用に工夫している。			